

各位

党派を超えて国家的課題を追求する  
**公益財団法人 協和協会**  
**時代を刷新する会**

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
教育部会長 若 林 克 彦  
両団体専務理事 清 原 淳 平

**教育部会のお知らせ** (第340回)

日時 平成30年4月13日(金)午後1時半～3時半  
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第7会議室  
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第7会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

- 議 題 1、最近の高等教育改革について思う  
挨拶 若林克彦部会長(国士舘大学元学長)  
2、平成29年度教育部会の議論を振り返り、本年度の課題を  
考える  
解説 若林克彦部会長

報 告 去る3月23日開催の、第339回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務めて行われました。まず、若林部会長より、「最近の高等教育改革について思う」と題して挨拶がありました。文科省で、「高等教育に関する将来構想について」の諮問に関する意見が出た。現役の大学生の間から、「大学で何かが身につくとは思わない」という意見が出て、質の向上が喫緊の課題であるとの認識が共有された。例えば、700以上ある学位は国際通用性を持たせるよう整理する。AIの進展によって就職事情も変化して

いくことが予想されるが、すべての子供に高等教育を受けさせなければAI時代についていけない、と考えるか、学業より秀でた分野があるのなら、中学校卒業後などの早いうちから伝統技術習得を目指させるか、生徒にどの段階で進路をどう選ばせるかが課題である。優秀な人材は18歳より前から入学させる。社会人や定年後の人材にも門戸を広げるなどの工夫がないと、20年後には3分の2の大学は生き残れない可能性がある。

次に、若林部会長より、「専門職大学の概要と特色」について解説がありました。先ほどの諮問で、大学の機能分化についても指摘があり、そのうちのひとつとして、実践的な職業教育を行う高等教育機関の制度化が中教審から出た。それぞれの職業現場で、AIが取って代わることのできない能力、例えば、生産性の向上、高度な技術、新しいアイデアの創出などといった能力を身に付けさせることを主眼に置く。入学者は高校卒業生にとどまらず、社会人も受け入れ、修業年限は2～4年と幅広い。実習を重視し、実務家教員を半数近く入れる。授業は原則40人以下で受けることを義務付ける。認証評価には専門団体も参加され、教育の質はある程度保証されると考えられる。専門学校とどう住み分けるかが問題であったが、この専門職大学では、卒業すれば学士号が付与される。欧米では2つ3つの大学を卒業することは珍しくないの、多様な人材が参加可能な機関になるだろう。

その後、一同にて以下の趣旨の意見交換が行われました。○自分の経験談だが、高付加価値化や質の高いサービスというのは、2年や4年で身につくものではないし、座学でできるものでもない。○入学する生徒の学習意欲にもよるだろうが、教育についていけなくなったらどうするのか、という問題もある。等々の意見が出ました。

★資料代 会員は五百円に ご協力御願ひ申し上げます。

次回、4月13日(金)の教育部会に

出・欠 (いずれかに○印)

事務局宛FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様のFAX

電話

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その場合の当日会費は二千元となります)

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620